

## 第1回安曇野市環境審議会 会議概要

- 1 会議名 第1回安曇野市環境審議会
- 2 日時 令和6年5月16日(木) 午後1時30分から午後3時まで
- 3 会場 豊科交流学習センター 多目的交流ホール
- 4 出席者 環境審議会 本木 修一 会長、磯野 康子 副会長、堀口 義貴 委員、  
須之部 大 委員、山崎 淳 委員、畑中 健一郎 委員、今井 隆一 委員、  
丸山 直樹 委員、堀井 勇司 委員、降旗 幸子 委員、原 弥生 委員  
降幡 好華 委員、南方 裕生 委員
- 5 市側出席者 市民生活部 吉田部長、環境課 百瀬課長、ゼロカーボン推進課 龍野課長  
環境政策担当 所補佐、増田係長、古屋主任、環境保全係 中島補佐  
資源循環推進担当 土屋係長、西牧係長
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴人 0名
- 8 会議概要作成年月日 令和6年5月29日

### 協 議 事 項 等

#### 【進行表】

1. 開会
2. 市民生活部長あいさつ
3. 自己紹介
4. 事務局紹介
5. 会長及び副会長の選出
6. 会長及び副会長あいさつ
7. 環境審議会の役割について
8. 報告事項

【会長：本木 修一 委員、副会長：磯野 康子 委員を選出】

- (1) 令和6年度環境課・ゼロカーボン推進課の業務概要について
- (2) 安曇野市環境基本計画、環境行動計画及び令和6年度実施計画書について
- (3) 令和6年度安曇野市一般廃棄物処理実施計画について
9. その他
10. 閉会

#### 【議事】

報告事項 (1) 令和6年度環境課・ゼロカーボン推進課の業務概要について

<環境課から説明>

<ゼロカーボン推進課から説明>

<質疑・意見>

特になし

報告事項（２）安曇野市環境基本計画、環境行動計画及び令和６年度実施計画書について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

（委員）

環境行動計画及び令和６年度実施計画書の変更点を説明していただいたが、昨年度の３月の環境審議会では多くの意見が出ていた。環境行動計画の変更点は２か所だったが、実行していく中で、環境審議会で出た意見を参考にしていかなければ意見を出したかいがない。参考にし、点検・評価をする際は、「昨年度意見をいただいたので、このように変更しました」と説明していただけると、意見が反映されたことによるやりがいも感じる。また、委員も安曇野市民のことを考えて意見をしなければとより思う。

（環境課）

昨年度の３月に出していただいた意見については、年次報告書として７月の環境審議会で説明する。担当者には、審議会の意見を共有している。出来る限り意見を反映し、結果を報告できるように進めていく。

報告事項（３）令和６年度安曇野市一般廃棄物処理実施計画について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

（委員）

穂高クリーンセンターの最終の焼却灰は、現状県外に埋め立てをしている。約３０年前、処理センターとして、自前の埋め立て地を作ろうと努力した。結果的には、候補地から大きな反対があり、なくなった。クリーンな安曇野と言いながら、焼却灰を県外で埋め立てて、自分の地域はきれいだと言っている。この考え方は違うと感じる。行政には、自分の地域で埋め立て地を開拓する努力が必要であると感じる。

（環境課）

穂高広域施設組合では、自前で処分場を設けなければいけないと以前から検討されているが、地元との協議というところがある。穂高広域施設組合が主管にはなるが、聞く限りでは、県外と県内の中野市に持っていつているとのこと。

その他

<環境課から説明>

<質疑・意見>

（委員）

会議の前に、どの資料があるかを確認していただきたい。また、説明する際は、ゆっくり説明していただきたい。

（環境課）

次回からは、そのように対応する。

(委員)

日本や世界には、いろいろな締約国会議がある。毎年変わりつつあるというところがあるが、生物多様性条約について、環境省では地域レベルで計画を考えることが行政的に進んでいると思われる。環境に関する個別計画である、緑の基本計画や里山再生計画はボリュームが大きい計画であるが、30by30を実践するとなると、すぐに動けるものでないにしても、30by30を前提にし、環境基本計画の重点取り組みの生物多様性に関する部分が30by30につながらないといけないと思う。かつてからある「Think Globally、Act Locally（地域で考え、地球規模で行動する）」という考え方に乗っかって、個別の地域の中から全体を考える。基本計画では、生物の保全や外来種の問題に触れているが、地域の参画を念頭において、計画の中に盛り込んでいく必要があると感じる。安曇野市はどこから始めるのかという情報を集めてほしい。2027年に横浜市でGREEN×EXPO（国際園芸博覧会）が開催される。環境や自然がテーマとなると思う。全国の自治体等が行おうとしていることに、安曇野市の計画も擦り寄って、大きなことは出来なくても、全国に発信することに知恵を絞っていく機会になればと思う。

(環境課)

環境行動計画の取り組みは、随時内容の変更が可能である。ご意見をいただきながら、取り組みの充実を図っていく。今後も意見をいただいたものについては、可能な限り反映していきたい。

(会長)

ゼロカーボン推進課が新設された。ゼロカーボンを各家庭で進めていくことは、環境基本計画の中にも盛り込まれている。市の関係する施設や自動車などについて、市が関係する部分のゼロカーボン推進をどうしていくのか、具体的な計画として今年中には取りまとめていただきたい。

(ゼロカーボン推進課)

令和5年3月にゼロカーボンシティ宣言をし、安曇野市の区域としての温暖化対策計画を策定した。2050年のゼロカーボンを見据えて、2030年度までに市域のCO<sub>2</sub>排出量を50%削減する計画である。一方で、市が事業者として取り組む計画もある。ゼロカーボンシティ宣言をする前に策定した計画であり、目標値が低くなってしまっているため、今年度、改定することを考えている。節電に努めましょうというような文言もあったが、例えば、新しく建てるものはZEBにする、公用車は電気自動車を基本とするなど、制度的、重点的に取り組むことを示した上で施策を追加し、目標を高くすること考えている。

(委員)

ゼロカーボン推進課の新設は、環境審議会で意見を出し、前会長が市長に新設を要請した結果だと認識している。環境審議会とゼロカーボン推進課は、今後どのように関わっていくのか。2030年度までにCO<sub>2</sub>排出量を削減するロードマップを作っていくことになるのかと思うが、その審査は環境審議会で行っていくのか。

(環境課)

環境基本計画は、環境とゼロカーボンに関する問題がまとまっている。環境審議会が環境基本条例に定められているものである。今までと同様、ゼロカーボンを含めた環境の問題を環境審議会の中で審議していただきたい。新しい創出事業もあるかと思うが、審議会を通じてご意見をいただき、さらなる創出を進めていきたい。その部署に環境課とゼロカーボン推進課がある

と認識していただければと思う。

(委員)

紙が重点になっている会議に違和感がある。パソコンを使用していれば、資料をメールに添付して送ることもできる。一般的な会議は、パソコンの中に入っている資料を開いて見る。また、プロジェクターで前に映すことで、どこについて話をしているのかが分かる。委員と事務局の印刷分をゼロにただけで、かなりのペーパーレスになり、印刷時の電気使用量も削減できる。環境審議会の中からペーパーレスを進めていけないか検討していただきたい。

(環境課)

会議は、環境審議会も含めて、ペーパーレスに取り組める部分から取り組んでいく。次回以降、そのような方向で考えていく。

(副会長)

環境行動計画の4ページに、重点取り組みに対しての担当課・係が記載されている。ゼロカーボン推進課の記載がない。環境課環境政策担当とゼロカーボン推進課の関係性が分からない。そのあたりの兼ね合いはどうなっているのか。

(環境課)

令和6年度実施計画書は担当をゼロカーボン推進課に変更したが、環境行動計画を訂正していなかった。7月の環境審議会でも、訂正した環境行動計画を提出する。

(環境課)

重点取り組みのタイトルを中心に、担当課・係が記載されている。環境課は何を進めていくのか、ゼロカーボン推進課は何を進めていくのかという、逆のパターンからの見方もある。それも合わせて示していくことにより、今後の見方や方向性も変わってくると思うため、用意する。

(会長)

新しい課ができて何かを始めようとするときは、部・課・係はということが職務分掌であり、どういう職務権限があるのかが明確になっていないと、自身の経験では、大抵うまくいかない。例えば、ゼロカーボンの推進については、他部署にお願いではなく指示ができるなど、きちんと決めることを考慮して進めていただきたい。

(午後3時00分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

・7月19日 第2回環境審議会